

令和6年度(2024年度)熊本・上益城地域保健医療推進協議会(要旨)

協議会名：熊本・上益城地域保健医療推進協議会
開催場所：熊本県医師会館 6階大会議室
開催日時：令和7年(2025年)2月18日(火) 14:00~15:30
出席数(委員)：24名(内訳；熊本市14名、上益城10名)
※欠席者6名(熊本市2名、上益城4名)

議題1：第8次熊本県保健医療計画及び第8次熊本・上益城地域保健医療計画について

議題2：第8次熊本・上益城地域保健医療計画の推進に向けて

※「議題1」「議題2」は併せて協議を実施。

【質疑応答】

菊池委員(公募委員・熊本市)

- 研修会や広報に関する効果測定をどの程度行っているか。
⇒アウトプット評価において「周知した」「情報共有した」といった表現が多いが、実際の理解度を把握し、そのうえで課題や対策の議論が必要。(加藤委員・会長・学識経験者・熊本市)
- ⇒現在、県もロジックモデルを使用しているため、そのようなモデルを使用しながら効果測定を行っていきたい。また、実施回数だけでなく、効果や成果等を数値化し、見える形で示せるよう検討する。(熊本市医療対策課)

- 色々な研修会を実施した場合に、内容的に問題なければ、YouTube等で公表して興味のある方が継続して視聴できる仕組みがあると良いのではないか。
⇒若い世代の方や実際に研修等に参加ができない方に見てもらうことはとても大事なことであるため、内容を精査しながら、YouTubeやSNSの活用等を考えていきたい。(熊本市医療対策課)

- 各種ICTやアプリ、広報誌を活用して情報提供を実施されているが、どの年齢層に届きやすいか、届きにくいかを確認し、対象年齢層に応じた情報提供を行う必要がある。
⇒効果的な広報について、関係部署と協議していきたい。行政だけでは広報が隔々まで行き渡らないため、各団体としての情報発信や、職域との連携などにご協力いただきたい。(熊本市医療対策課)

田中委員(県栄養士会・熊本市)

- 歯科健診におけるみなし健診等の取組の推進について伺いたい。
⇒歯周病健診を国の指針に基づいて実施しており、今年度から20歳・30歳を対象に追加した。これまで、20歳・30歳の若年層の歯科口腔保健については、健診の実施がなかったため、今回新たに熊本市歯科医師会と共同して取り組んでいる。周知に努めて、ある程度高い受診率を達成できる見込みではないかと思っている。(熊本市健康づくり推進課)

- 特定健診は、40代以上の方が対象だが、20代・30代の生活習慣病健診に係る受診率の向上に対する取組についてどのように考えているか。
⇒地域職域連携がやはりどこもあまり上手くいっていない。その仕組みを考えていただきたい。(加藤委員・会長・学識経験者・熊本市)

加藤委員(会長・学識経験者・熊本市)

- 歯科健診について勉強したが、やはり過疎地域での歯科医師の不足と歯科医師側の問題があり、なかなか診てもらえないという状況もある。

渡辺委員（市歯科医師会・熊本市）

○今年から、熊本市の節目健診の受診対象者は20代・30代にも拡大された。健診を機会としてかかりつけを持ってもらうことが目的のひとつであり、これにより、充実した口腔環境を維持することができるのではないかと考えている。

小山委員（御船保健所・上益城）

○上益城5町のうち、山都町の歯科健診受診率が比較的高いという印象がある。山都町の土地柄、地元の医療機関にかかっているのではないかと思う。残りの4町は、仕事先などでの受診も含めてあるかと思う。

⇒追加で、山都町で以前は集団健診で内科健診と歯科健診を同時に実施し、高い受診率を維持していたが、現在は個別健診となり受診率が低下した。また、嘉島町でも歯科のモデル事業を実施している。（御船保健所保健予防課）

加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

○地域職域連携の中で歯科健診の受診率を向上させようと思い、企業健診で歯科を導入しようと試みたが、歯科医師会の協力を得ることが難しかった。大都市は集団歯科健診が可能だが、田舎では難しく、九州内では実施例がほとんどないと思われる。歯周病の検査キットのようなものを使いながらやっていると聞いている。

植村委員（市地域婦人会連絡協議会・熊本市）

○月1回出前講座を実施している。認知症の出前講座において歯科の重要性に関する話があったため、多方面と連携しながら進めていくと良いのではないか。また、歯科の往診についても今後少しずつ広まっていくのではないかと感じている。

加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

○上益城の選んだ課題が少ない理由は、上益城は県と被っているからなのか、あるいはスタッフが少ないからなのか。

⇒上益城は共通項目を6項目、熊本市と一緒に取り組み、それ以外は4つの項目になる。県計画と一体的に取り組むというところで、今回挙げている項目以外についても関係機関と連携しながら、取組を進めていきたい。（御船保健所総務企画課）

本委員（県看護協議会・熊本市）

○糖尿病の重症化予防では伴走型の療養指導がとても大切である。熊本市と上益城地域の糖尿病療養指導士の数を教えていただきたい。

⇒実態把握が不十分であるため、確認をして改めて情報提供したい。（熊本市医療対策課）

⇒集団全体を考えた時に、「何となく健康だけど、ちょっと具合が悪いという人」が多数おり、全体のヘルスプロモーションを進めるのは、やはりプロフェッショナルとセミプロの力が必要であり、そこが全体の底上げに非常に重要だと思う。（加藤委員・会長・学識経験者・熊本市）

渡辺委員（市歯科医師会・熊本市）

○歯科の在宅診療について、歯科医師会でもある程度把握しており、ホームページに対応歯科医院を掲載している。直接歯科医院に問い合わせるか、歯科医師会に連絡して訪問できる歯科医院の紹介を依頼することも可能。

○フッ化物塗布について乳幼児期に新たに設けられた。また、フッ化物洗口は上益城では小学校の全学年に実施している一方、熊本市はそこまで至っていない。時間的余裕もないため、是非頑張っていたいただきたい。

菊池委員（公募委員・熊本市）

○上益城版エンディングノートはホームページ等で見られるものか。それとも、地域で配っているのか。

⇒上益城エンディングノートはまだ出来上がっていない。小国町のエンディングノートを参考にしながら、上益城に必要な項目を追加し現在作成を進めているところである。（御船保健所総務企画課）

村上委員（市PTA協議会・熊本市）

- 自殺予防対策の推進について、保護者向けの講演会の参加者はどの程度か。
⇒9月7日に開催し、概ね60名の参加だった。こどもの自殺対策については、新聞等々で重点課題として取り上げられているため、熊本市としても今後もこのような形で講演会等を開催していきたい。（熊本市こころの健康センター）

田中委員（県栄養士会・熊本市）

- 栄養士会としてCKDの予防対策、重症化予防、高齢者のフレイル予防等の色々な事業に参画はしているが、会として人材の掘り起こしに苦慮している。また、以前に比べると、行政への栄養士の配置も進んでいるが、なかなか職員としての数が少ない。
災害医療においても、石川での1.5次避難所など、配慮が必要な方の支援として、個別支援を強化しながら災害支援のチームとしても育成を行っている。ぜひ人材の掘り起こしに関しても連携していきたい。
- 令和4年と令和5年で、県立大学と潜在栄養士の職場復帰に取り組んだ。潜在的な栄養士への情報発信が課題であり、今後も行政と連携していきたい。さらに広く多職種の方々とも連携していきたい。

加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

- 私は今大学院にいて多職種連携が重要で仕掛けが必要だと考えている。そのため、大学院としては、自分で考え、企画を立て、実務もこなせる高いレベルの人材を育成したい。
研修会に参加するだけでなく、学会や研修会で発表できるプレゼンテーション能力が必要だが、実際にそのレベルに達する人は少ない状況。そのあたりまで専門職のスキルを高めレベルを上げないと難しい、そのための仕掛けがいると思っている。

平川委員（市食生活改善推進員協議会・熊本市）

- 健康について、フレイル予防の講習をしている。人員の確保は、市で養成講座を受けた後、食生活改善推進委員に入ってもらっている。今、崇城大学の学生さんにも受講してもらい、会員になってもらっている。
⇒私もセミプロの養成が大事だと思っている。プロだけだとやはり社会全体の底上げにはつながらないため、そこに我々の果たすべき役割はあると思う。（加藤委員・会長・学識経験者・熊本市）

議題3：令和7年度（2025年度）以降の本協議会及び委員の選任について

※特になし

議題4：その他

【ご意見等】

加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

- これから6カ年の計画の中で、外国人労働者がどんどん増えてきている。外国人労働者は健康問題を色々抱えていて、宗教の背景もある。外国人労働者に対して、今後どういう対策をするか、ぜひ1つの課題として提案したい。集団生活を送っていたり、食事が偏っていたりする。健診データも日本人のデータとは違うところもあり、彼らの特色・特徴を把握しておく必要がある。

菊池委員（公募委員・熊本市）

- 参考情報だが、外国人に対して、健診機関によっては現在妊婦健診を始めている。また、受付を含めて、紙・デジタル媒体は翻訳をして案内している。言葉の支援をしながらの健診が始まっている。

加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

- 私も（外国人は）喫煙率が結構高いかなと思っている。喫煙できないと会社に来てくれないため、中には、喫煙場所をわざわざ設けてそういった労働者に来てもらう会社もあり、

なかなか対応が難しい。

田中委員（県栄養士会・熊本市）

○私は健診機関に在籍している。外国人は増える一方なので、理解して安全に健診を受けてもらうための配慮として、例えば、事業所の通訳の方に来てもらえるかという話はしていたが、数が多くなり通訳の同伴も難しくなっている。

次年度は翻訳機を各部署に置いて、外国人にも正しく、安全に健診を受けてもらうための取組を進めようとしている。

また、国民健康保険で受診に来られるが、明らかに事業所のレベルで健診を受けてもらわないといけない方がまとまってこられるような事例もあるため、自治体と協議をしていきたい。